

## 高知県のものづくり技術

高知県産業振興計画では、高知県の産業の特徴として、第2次産業に比べて第1次および第3次産業が主要なことを指摘し、それ故に農林水産業を基盤とした1.5次産業の育成と強化に活路を見出すとの提言を行っている。しかし、高知県には、地域に根ざしたキラリと光る、日本一・世界一とも自負する優れた「ものづくり産業」、すなわち第2次産業があることも事実である。残念なことに、これとは対照的に、高知県の第2次産業に対する県民の意識と理解は必ずしも十分なものとはいえず、それが地場産業の活性化を阻害する一因となっているだけでなく、若者の第2次産業に対する就業機会の損失にも繋がっているのではないかと危惧される。

「高知化学会」ではそのような状況を憂い、吉田勝平前会長の発案をもとに、会報を通じて本会に所属する化学関係の地元企業の紹介を行ってきた。限られた紙面の関係で、残念ながら「ものづくりに込められた夢とロマン」について、技術・知恵・伝統といった切り口からは十分に紹介しきれない部分もあるが、このような地道な努力を継続していくことが高知県の未来にも有益なものと考えている。

我が国は、昨年の民主党政権の発足を待つまでもなく、90年代初頭のバブル崩壊以降、経済的な困窮度は深刻さを極め、閉塞感のみを露呈する結果となっている。このような状況の中で、7月23日に閣議決定された「平成23年度予算の概算要求組替え基準」においては、各省の次年度概算要求を本年度の10%減にするとしている。これがそのまま国立大学法人の補助金に適用されるとすると、研究・教育の大幅な衰退を招くことは必定であろう。わずか一ヶ月前の6月18日に閣議決定された「新成長戦略」の中では、「強い経済」、「強い財政」、「強い社会保障」を実現させるための原動力として、強い人材の育成、教育力や研究開発力の増強、成長の源となる新たな技術及び産業のフロンティア開拓、科学・技術への先行投資等が必要と謳っているにもかかわらず！

政府見解を待つまでもなく、資源の乏しい我が国が世界をリードするほどまでの経済大国にまで上りつめることができたのは、科学・技術力、及び教育水準の高さにあることは万人の認めるところである。今一度、我が国の成長を支えてきた科学・技術における“知の産物への期待と尊敬”を取り戻すために、企業の成長戦略の陰に隠れてしまった「ものづくりに込められた夢とロマン」を掘り起こし、次代に伝えていく作業が必要ではないかと考えている。

(高知化学会会報 第48号巻頭言 2010年8月6日)